

2019年度
金沢学院短期大学
学生の学修状況・学修成果等の検証
報告書
(概要版)

アドミッションポリシーの評価資料

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後に実施したアンケート項目の中から、「入学理由／進学目的」を問う設問を選び、さらにその回答を「学修関係」、「学修以外」、「その他／目的なし」に分類し直して整理した。さらに、2019年度前期の出席率を算出した。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後に実施したアンケート項目の中から、「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」、「満足度」を問う設問を選び、それらの回答を「やる気の有無」、「期待感の有無」、「満足度の高低」に分類し直して整理した。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均を、大学全体・短大全体・学科別に算出し、さらに学科内で入試区分別に分類して平均を算出した。これらの平均を、大学・短大全体の平均と比較して+5点以上のものを「学内平均を上回った」、±5点の範囲のものを「学内平均と同程度」、-5点以下のものを「学内平均を下回った」と表記した。

なお、基礎学力確認テストの総合成績は、満点が65点、大学平均が42.2点（SD=10.11）、短大平均が37.5点（SD=9.26）であった。

【現代教養学科】

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後のアンケートでは、入学理由に学修関係の目的を挙げた入学生が79.6%であった。「社会に出てから役立つ知識・技術を身につける」と資格・免許の取得を第一の理由に挙げた学生が同数であった(31.8%)。前期の出席率にも一部の学生(不登校傾向のある者)を除き、問題はない。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後のアンケートの「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」を問う設問への回答から、今後の学生生活にやる気があり(100.0%)、それを楽しみにしている(84.1%)学生が多いことが明らかである。本学への入学に満足している学生は、90.9%である。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

総合成績の学科平均は38.7点(SD=10.01)で、短大平均並みであった。本学科では、入学者が10名を超える入試区分は、指定校推薦と付属高校選抜しかなく、その他はすべて5名以下なので、区分別の比較は妥当ではない。平均以上または短大平均並みの成績であった学生は、全体の90.1%である。短大平均-1SD以下(入学者全体の下位15.93%)に相当する学生の比率は、9.1%であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、今年度の入学生は学ぶ意欲が高く、短大での学修に必要な基礎学力も備えていると言える。したがって、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

【食物栄養学科】

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後のアンケートでは、入学理由に学修関係の目的を挙げた入学生が94.9%であった。栄養士養成の学科であり、資格・免許の取得を第1の理由に挙げる学生が多い(64.3%)。前期の出席率にも一部の学生(不登校傾向のある者)を除き、問題はない。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後のアンケートの「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」を問う設問への回答から、今後の学生生活にやる気があり(100.0%)、それを楽しみにしている(85.7%)学生が多いことが明らかである。本学への入学に満足している学生は、95.2%である。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

総合成績の学科平均は36.7点(SD=8.03)で、短大平均並みであった。本学科では、入学者が10名を超える入試区分が指定校推薦と付属高校選抜しかなく、その他はすべて5名以下なので、区分別の

比較は妥当ではない。平均以上または短大平均並みの成績であった学生は、全体の 88.1%である。短大平均-1SD 以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する学生の比率は、14.3%であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、今年度の入学生は学ぶ意欲が高く、短大での学修に必要な基礎学力も備えていると言える。したがって、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

【幼児教育学科】

① 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後のアンケートでは、入学理由に学修関係の目的を挙げた入学生が 87.9%であった。保育士／幼稚園教諭養成の学科であり、資格・免許の取得を第 1 の理由に挙げる学生が多い（72.7%）。前期の出席率にも一部の学生（不登校傾向のある者）を除き、問題はない。

② これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後のアンケートの「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」を問う設問への回答から、今後の学生生活にやる気があり（97.0%）、それを楽しみにしている（93.9%）学生が多いことが明らかである。本学への入学に満足している学生は、94.0%である。

③ 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

総合成績の学科平均は 36.7 点（SD=9.50）で、短大平均並みであった。本学科では、入学者が 10 名を超える入試区分がないので、区分別の比較は妥当ではない。平均以上または短大平均並みの成績であった学生は、全体の 87.9%である。短大平均-1SD 以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する学生の比率は、6.1%であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、今年度の入学生は学ぶ意欲が高く、短大での学修に必要な基礎学力も備えていると言える。したがって、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

アドミッションポリシーに関する総合評価

以上の評価により、短大においては、アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えず、現在のアドミッションポリシーには大学の実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていない。

ただし、一部の学科における学力の担保について、課題が残る。

カリキュラムポリシーの評価資料

○各学科における主要科目（教養・専門・卒業研究／卒業論文等）の合格率と履修放棄率

2018年度に開講されたすべての科目について、成績評価の内訳をすべて整理した。

これらの科目の中から各学科長が学科の学びの中核となる主要科目を選び、これらの科目の成績評価の内訳の比率（秀・優・良・可）とこれらを合わせた合格率（単位修得率）を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」と「取消」の数を合計して、学期当初の履修登録者に占める履修放棄率を算出した。

【現代教養学科】**①評価の対象とする科目**

必修科目（初年次，キャリア，選択必修）8科目，総合・教育科目4科目，基盤・コア科目6科目，コース・専門科目6科目，合計24科目を主要科目とする。なお，基盤・コア科目，およびコース・専門科目は，教育内容やコース（公務員・一般事務，観光・ホテル・ファッション，ICT・簿記会計）に応じて区分されているため，各区分で基本・重要な科目を選択した。

②主要科目の合格率と履修放棄率

対象とした科目では，多くの科目で合格率は100%になっており，合格率が70%に満たない科目や，放棄率が10%を超える科目はなく，学生が順調に学んでいると言える。成績評価も，「秀」～「可」まで，ほぼ正規分布を呈している科目が多い。なお，僅かではあるが，「可」の評価が受講生の30%を超えた科目もある。

総合評価

本学科では，対象とした主要科目の履修については，順調に学修が進んでいる。そして，基盤・コア科目からコース・専門科目へと，学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。これより，評価対象としたカリキュラムに，学修計画の不備はないと判断する。

【食物栄養学科】**① 評価の対象とする科目**

必修科目8科目（教養科目のキャリア科目2科目を含む），選択教養科目3科目，専門選択科目8科目の計19科目を主要科目とする。なお，評価するカリキュラムは，2017年度と2018年度の入学生に適用されていたものとする。

②主要科目の合格率と履修放棄率

対象とした科目では，合格率が60%に満たない科目や放棄率が10%を超える科目はなく，学生が順調に学んでいると言える。ただし成績評価については，2科目で「可」が60%を超えている。「優」以上と「良」以下の比率に分けて比較すると，低い方の評価が全体の60%以上を占める科目が，上記の2科目を含め5科目ある。一方，高い方の評価が全体の60%以上を占める科目も，5科目ある。その他の科目には，どちらかへの偏りはみられない。

総合評価

本学科では，対象とした主要科目の履修につまずきは見られず，学生は順調に学んでいると言える。したがって，評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。成績評価が低い方へ集中している科目については，今後学生の状況等を精査する。

【幼児教育学科】

①評価の対象とする科目

専門教育科目中、幼児教育学科としての基礎科目 5 科目、教育及び保育の基礎的理解に関する科目 6 科目、教育および保育の内容・方法に関する科目 14 科目、実習関連科目 3 科目、合計 28 科目を対象とした。本学科は 2018 年度設置であるため、現 2 年生の 1 年次の成績を対象とし、2 年次(2019 年度)開講の科目は含まない。

②主要科目の合格率と履修放棄率

対象とした科目は、すべての科目で合格率が 100.0%になっている。放棄率もすべて 0.0%であり、学生は順調に学んでいると言える。成績評価を「優」以上と「良」以下の比率に分けて比較すると、ほぼすべての科目で半数ずつとなっており、強い偏りは見られないが、1 科目のみ「優」以上の比率が 6.9%となった科目がある。

総合評価

本学科では、対象とした主要科目の履修については、順調に学修が進んでいる。成績評価が低い方へ集中している科目については、今後学生の状況等を精査する。

カリキュラムポリシーに関する総合評価

短大においては、カリキュラム(教育課程)は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。また、食物栄養学科および幼児教育学科においては、卒業時に資格(栄養士、保育士・幼稚園教諭 2 種)を取得することを前提として、カリキュラムが編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまづきを誘発する要素(その段階にそぐわない内容や難易度)があると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。

したがって、カリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた成績の低評価への強い偏りについては、今後の精査を必要とする。

ディプロマポリシーの評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、必修の卒業研究、卒業制作を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。

②卒業率（2年での学修達成率）

2017年度に入学し、2018年度に2年間で教育課程を修了して卒業した学生の数を、その学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。

③就職内定率

各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。

【現代教養学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

現代教養学科では、「卒業研究」は2年生後期の必修科目である。休学等の学生を除き、39名が履修し全員が合格した。学生は、半年間を掛けて希望の研究テーマに取り組み、2019年2月5日（火）に講堂で公開の発表会をおこなった。成績評価は、秀から可まで、ほぼ均等（秀が28.2%、優が28.2%、良が20.5%、可が23.1%）である。合格率は100%であった。

②卒業率（2年での学修達成率）

2017年度4月に入学した学生は42名であった。このうち92.9%に相当する39名が、2年間で教育課程を修了し2018年度3月に卒業した。

③就職内定率

就職希望者35名に対して、内定を得た者は34名で、内定率は97.1%であった。

総合評価

卒業研究のテーマは、入学してから「教育科目」、「コア科目」、「コース・専門科目」を学んだ上で、各自が興味を持った内容である。研究論文作成には苦労を重ね、発表会では緊張しながらプレゼンをおこなった。発表を終えた学生には、喜びと達成感が表れており、2年間の学びの集大成として十分な学修成果を上げたといえる。

以上①から③までの評価に基づき、2018年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

【食物栄養学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

該当科目なし。

②卒業率（2年での学修達成率）

2017年度4月に入学した学生は49名であった。このうち98.0%に相当する48名が、2年間で教育課程を修了し2018年度3月に卒業した。

③就職内定率

就職希望者43名に対して、内定を得た者は43名で、内定率100.0%であった。

総合評価

以上②、③の評価に基づき、2018年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

【幼児教育学科】 完成年度を迎えていないため、2018年度の卒業生はいない。

ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、短大においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないといえる。